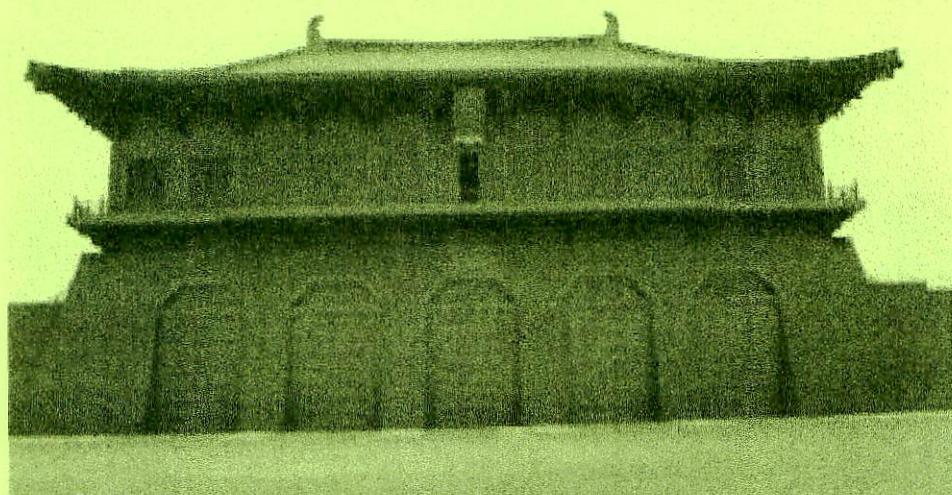


東アジア世界史研究センター 平成23年度 公開講座

墓制から見た東アジアの交流



西安・長安城大明宮 丹鳳門

文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター整備事業）

「古代東アジア世界史と留学生」

日時：平成23年7月9日（土）13:00～18:00

会場：専修大学生田校舎10号館1階10101教室

東アジア世界史研究センターの研究計画〈概要〉

【研究目的】

これまでの東アジア世界を対象とした歴史研究プロジェクトは、壮大なテーマを掲げて取り組んできましたが、本プロジェクトは、追求すべきテーマを絞り込み、古代東アジア世界を流動した人々との対比を視野に入れた上で、東アジアの国々が、様々な文化・文物の流入を期待し、それを直接に担った「留学生」に焦点を絞り、テーマを設定しました。

先進文明国に位置する中国への留学生は、文化・文物を「移植」・「媒介」した存在ではありますが、その果たした歴史的な意義は、十分に明らかにされていません。

本プロジェクトは、本学大学院が発見に大きな役割を果たした「遣唐使井真成墓誌」で培われました中国西北大学大学院との共同研究（その成果の一部は『遣唐使の見た中国と日本』朝日新聞社、2005年、として刊行）を基礎として、1. 隋・唐代の中国を訪れた東アジアからの留学生の全貌を明らかにした上で、2. 古代東アジアの国々への影響を解明するものであります。これは、文物の「媒介者」の歴史的意義を問う試みであり、グローバル化した現代において見失われがちな「媒介者」の正当な位置づけとその果たしている重要性を確認させる点において、現代的な意義を有する研究といえます。また、研究計画を遂行する中で、日本人に限定しないで、東アジア世界の若手研究者の育成を目的の一つにしていることも、本プロジェクトの特徴となっています。

【研究テーマ】

- ① 遣唐使井真成墓誌関係史資料の研究
- ② 日本・中国・朝鮮の「留学生」史・資料についての研究
- ③ 政治・制度・文化・思想の接触と受容からみた東アジア世界の研究
- ④ 物の移動からみた東アジア世界の研究

・研究プロジェクトの参加研究者

		研究課題	参加調査・研究チーム
専修大学			
荒木 敏夫	東アジアにおける政治史	①・③*	
矢野 建一	東アジアにおける留学生の位置	①*・③	
亀井 明德	東アジア世界と中国・日本	③・④	
高久 健二	東アジア世界と朝鮮・日本	③・④	
土生田 純之	東アジア世界と朝鮮・日本	③・④*	
飯尾 秀幸	律令制度と東アジア世界史	②*・③	
内藤 雅雄	東アジア世界と南アジア世界の交流	③・④	
田中 正敬	東アジア世界のなかの朝鮮半島	③・④	
松原 朗	東アジア世界における文化的人的交流	②・③	
土屋 昌明	東アジア世界における文化的人的交流	②・③	
巖 基珠	東アジア世界における文化的人的交流	②・③	
*は各研究テーマのチームリーダー			
西北大学（中国）			
王 建新	東アジア世界と中国	③・④	
王 維坤	東アジア世界と中国	③・④	

リサーチ・アシスタント

伊集院 葉子	専修大学大学院文学研究科博士後期課程（日本古代史）
窪田 藍	専修大学大学院文学研究科博士後期課程（日本古代史）
多田 麻希子	専修大学大学院文学研究科博士後期課程（中国古代史）

平成23年度公開講座 テーマ

墓制から見た東アジアの交流

プログラム

趣旨説明

13:00~13:20

荒木 敏夫

(東アジア世界史研究センター代表/専修大学教授)

講演

13:20~14:20

高久 健二

(東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)

「楽浪郡と三韓・倭の対外交流」

14:20~15:20

土生田 純之

(東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)

「墓制から見た朝鮮三国と倭」

15:20~15:40

休憩

15:40~16:40

劉 呆運

(陝西省考古研究院 隋唐考古研究部長)

「長安城郊外の唐代墓と東アジア」

通訳：三宅 俊彦 (専修大学兼任講師)

16:40~18:00

討論

司会・進行

飯尾 秀幸 (東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)

矢野 建一 (東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)

■ 講師紹介

■ 荒木 敏夫（あらかき としお） 専修大学文学部教授

東京都立大学大学院人文科学研究科史学専攻（博士課程）退学
【主要著書・論文】『可能性としての女帝—女帝と王権—』（青木書店、1999年） 『日本古代王権の研究』（吉川弘文館、2006年） 『日本の女性天皇』（小学館、2006年）

■ 高久 健二（たかく けんじ） 専修大学文学部教授

韓国・東亜大学校大学院史学科博士課程修了
【主要著書・論文】『楽浪古墳文化研究』（学研文化社、1995年） 「韓国の倭系遺物」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第110集、2004年） 「楽浪・帯方郡埴室墓の再検討」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第151集、2009年）

■ 土生田 純之（はぶた よしゆき） 専修大学文学部教授

関西大学大学院文学研究科修士課程修了
【主要著書・論文】『日本横穴式石室の系譜』（学生社、1991年） 『黄泉国の成立』（学生社、1998年） 『古墳時代の政治と社会』（吉川弘文館、2006年） 『古墳学入門』（編著、学生社、2003年） 『古墳時代の実像』（編著、学生社、2008年） 『文化遺産と現代』（編著、同成社、2009年） 『東日本の無袖横穴式石室』（編著、雄山閣、2010年） 『古墳』（吉川弘文館、2011年）

■ 劉 呆運（Liu Dai-yun） 陝西省考古研究院 隋唐考古研究部長

1985年、中山大学人類学系考古学専攻卒業、その後、26年のあいだ考古発掘と研究に従事。
主に南北朝隋唐考古に従事する。現在、陝西省考古研究院隋唐部部長、副研究員。
【主要著書・論文】『唐节愍太子墓发掘报告』（北京科学出版社、2004年） 『少陵原西周墓地（上下）』（北京科学出版社、2009年） 『重庆库区考古报告集 1997』（北京科学出版社、2001年） 『重庆库区考古报告集 2000』（北京科学出版社、2007年） 『重庆库区考古报告集 2001』（北京科学出版社、2008年） 「陝西北周墓葬述略」、「唐节愍太子墓出土文物的初步研究」、「西安南郊唐代墓地的发掘与研究」、「西安南郊唐代华钗、花簪的出土与初步研究」、「从西安地区唐墓出土胡人武士俑看胡人在唐代的历史地位」など

■ 通説紹介

■ 三宅 俊彦（みやけ としひこ） 専修大学文学部兼任講師

國學院大學大学院文学研究科博士課程後期修了
【主要著書・論文】『中国の埋められた錢貨』（同成社、2005年） 「中国窖藏錢の諸問題—宋・元・明を中心として—」（『考古学雑誌』第88巻第3号、2004年） 「10-13世紀の東アジアにおける鉄錢の流通」（『日本考古学』第20号、2005年） 「ベトナムからみた中近世東アジアの錢貨流通」（『物質文化史学論聚』、2009年）

■ 司会紹介

■ 飯尾 秀幸（いいお ひでゆき） 専修大学文学部教授

東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学
【主要著書・論文】『中国古代社会史論』（共訳、名著刊行会、1997年） 『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008年） 「中国古代の法と社会」『岩波講座、世界歴史』（第5巻、岩波書店、1998年） 「中国古代における個と共同性の展開」『歴史学研究』（729号、1999年） 「中国国家史研究は進んだか」『歴史学研究』（782号、2003年） 「中国古代における人の移動とその規制に関する基礎的研究」『専修大学人文科学年報』（37号、2007年）

■ 矢野 建一（やの けんいち） 専修大学文学部教授

立教大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学
【主要著書・論文】『遣唐使の見た中国と日本』（共著、朝日新聞社、2005年） 『長安都市文化と朝鮮・日本』（共編著、汲古書院、2007年） 『長安都市文化と朝鮮・日本』（共編著、三秦出版社、2008年） 「井真成研究—その後の研究動向によせて—」（『人文科学年報』37号、2007年） 「中国における入唐留学生研究の動向」（『人文科学年報』38号、2008年） 「遣唐使の派遣と春日山祭祀」（『東アジア世界史研究センター年報』1号、2008年）

東アジア世界史研究センター

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL/044-911-1283 FAX/044-911-1348

E-mail: east-asia@isc.senshu-u.ac.jp